

病害虫発生予察情報

令和7年11月28日

令和7年度 病害虫発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 12月予報

【トマト・キュウリ】タバココナジラミ

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ退緑黄化病などのウイルス病害を媒介します。発病株を確認した場合は速やかに取り除くとともに、本虫の防除を徹底してください。

【イチゴ】ハダニ類

同一ほ場でも場所により発生の多少があるため、見逃さないよう、よく観察してください。天敵製剤は、ハダニ類の密度が低い状態で使用することで、継続的な効果が期待できます。必要に応じて事前に薬剤を使用して密度低下を図ってください。また、放飼後は天敵に影響の少ない薬剤を選択してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(12月)

作物	病害虫名	12月 (予測)	発生状況及び今後の予測	11月 (発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、気温が低下し、発病適温を下回る時間が長くなるため、急激な増加はないと予測される。	少	・ うどんこ病 発生初期の防除を徹底する。
	ハダニ類	並	一部の調査ほ場で発生が認められる。今後、気温は平年並と予想され、増加が予測される。	やや少	・ ハダニ類 ほ場内をよく観察し局所的な発生に注意する。
	コナジラミ類	多	調査ほ場では発生が平年より多く認められる。今後、気温は平年並みと予想されるため、発生が続くと予測される。	多	
トマト	灰色かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、日照時間は多く降水量は少ないと予想されるため、急激な増加はないと予測される。	少	・ コナジラミ類 厳寒期でもほ場内では低密度で生息しているため防除を徹底する。
	コナジラミ類	多	調査ほ場では発生が平年より多く認められる。今後、気温は平年並みと予想されるため、発生が続くと予測される。	多	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病が認められるが、耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	* 11月調査は抑制栽培 12月予測は半促成栽培
	うどんこ病	やや少	調査ほ場では発病が認められるが、耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	やや少	・ 褐斑病・べと病 過湿時には循環扇等を利用して通風を良くする。
	べと病	少	調査ほ場では発病が認められるが、耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	・ アザミウマ類(ミナミキイロ) 黄化えそ病が見られるほ場では、発病株を抜き取り、薬剤防除を実施する。作型の切り換え時には粒剤を必ず施用する。
	アザミウマ類	少	調査ほ場では、発生は認められない。今後、増殖適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃及び東濃地域

注2) 調査品種 イチゴ: 濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ トマト: かれん、りんか

キュウリ: まりん(うどんこ病・褐斑病・べと病耐病性品種) ※まりんは、抑制型

野菜類 微小害虫

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病、トマト黄化病やキュウリ退緑黄化病のウイルスをそれぞれ媒介します。

これら微小害虫は、株と株とを移動し、次々とウイルスを媒介するため、低密度でも大きな被害を与えます。冬春施設栽培においては、ほ場内で越冬するため、厳寒期のほ場内の防除を徹底し、春先の増加を抑えましょう。

キュウリで作型を切りかえる場合(特に黄化えそ病が発病していた場合)は、次作の定植まで20日以上空け、保毒虫が次作に引き継がれないようにしましょう。

また、下記の対策により微小害虫の防除を徹底してください。

- ①前作の残渣やほ場内の雑草で生存するため、処分を徹底する。
- ②定植直後の増加を防ぐため、定植時には粒剤を施用する。
- ③開口部を防虫ネットで被覆する。
- ④薬剤散布を行う場合、同一系統薬剤の連用を避ける。

施設栽培の病害虫について

施設栽培では、作型や栽培環境などによりほ場ごとに病害虫の発生状況が異なります。ほ場内及び周囲の状況をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

○調査データ(11月調査)

イチゴ	岐阜・西濃			中濃		
	うどんこ病	(発生株率 %)	0	(0.0)	0	(0.0)
ハダニ類	(発生株率 %)	10.7	(10.2)	0	(9.8)	
コナジラミ類	(寄生株率 %)	5.3	(0.4)	0	(0.6)	
トマト	灰色かび病	(発病果率 %)	0	(0.0)	—	
	コナジラミ類	(誘殺頭数)	64.1	(13.0)	—	
キュウリ	褐斑病	(発病葉率 %)	0.5	(5.3)	0	(0.0)
うどんこ病	(発病葉率 %)	0.8	(5.1)	1.0	(0.2)	
べと病	(発病葉率 %)	0.3	(3.6)	0	(2.2)	
アザミウマ類	(寄生頭数/100葉)	0	(7.0)	0	(0.0)	

注1) イチゴは岐阜・西濃3ほ場、中濃1ほ場、トマトは3ほ場、キュウリは岐阜・西濃2ほ場、中濃1ほ場

注2) () 内は平年値

注3) コナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査。11月第1半旬～第3半旬の累積誘殺数

＝東海地方1か月予報＝(名古屋地方気象台 11月27日発表)

向こう1か月の気温は平年並か低い、降水量は少ないので、日照時間は多いと予想されます。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058)239-3161 FAX (058)234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード